

中学生連載企画 私たちの ふるさと 松山学 No.21 南中学校

私たちの住む 石井の今昔物語

私たちは椿神社や考古館を訪問し、石井地域の昔の姿について北井門・東石井・西石井でそれぞれ行われた発掘調査を調べました。

「南中学校は、遺跡の上に建っています。」

「本当に？」と半信半疑でした。

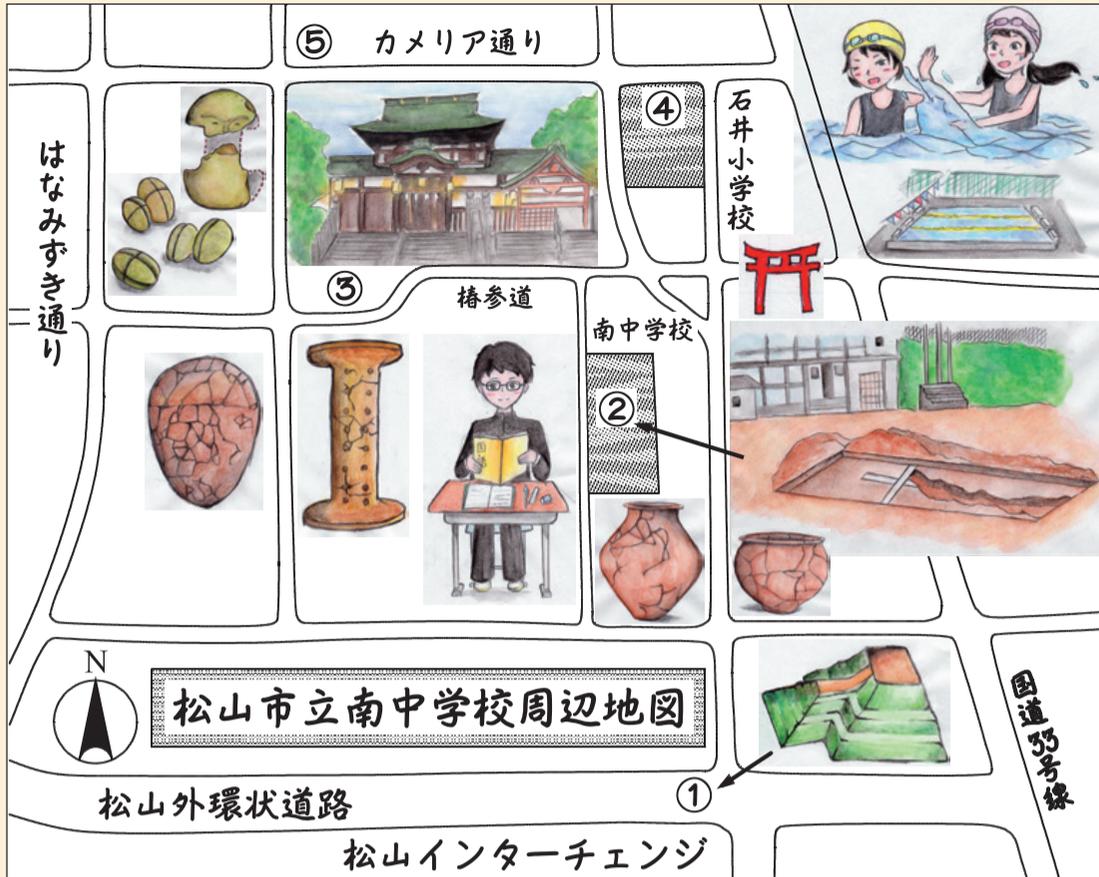
今回のふるさと学習に当たって、考古館を訪問した際に聞いた言葉です。そんなことは全く知らずに日々を過ごしていた私たちは、

現在の松山南警察署から松山インターチェンジの入

口に通じる道路の周辺からは、多くの竪穴住居跡のほか、前方後方墳も発掘されました。前方後方墳とは、古墳(昔の王族や集落の首長のための墓)の墳形の一つで、特に古墳時代前期の

① 前方後方墳の発掘

東日本に多く存在していたとされる墳形ですが、中国・四国地方にも多く存在し、中でも出雲地方では古墳時代を通じて前方後方墳が築かれていたそうです。北井門で発掘された前方後方墳も古墳時代の前期に当たる3世紀ごろに築かれたものとされており、今から約1800年前には前方後方墳を築くほどのリーダーを有する大きな集落が、私たちの住む石井地域には存在していたということが分かりました。



話を聞きながら熱心にメモを取る生徒ら

② 南中学校構内の発掘調査

私たちの通う南中学校でも、昭和61年に2度目の発掘調査が行われました。発見されたのは、弥生時代から古墳時代の集落跡です。体育館のそばでは、弥生時代前期の「溝」が検出されました(幅1〜3メートル、深さ30センチ)。溝からは、弥生時代前期の土器、紡錘車(糸を紡ぐための道具)、石斧(石の斧)、土掘具など、約70点が出土しています。

④ 東石井、カメラ通りの発掘調査

南中学校のそばにあり、石井小学校に面しているカメラ通りでは、道路の建設に伴い、平成13〜14年に発掘調査が行われました。石井小学校の北側では、弥生時代後期の竪穴住居、井戸のほか、古墳時代の掘立柱建物(地面に穴を掘り、そこに柱を建てた建物)、溝、古代の溝などが検出されています。

また、現在はコンビニエンスストアになっている場所の周辺からは、弥生時代中期から後期の土器や石器が数多く出土しており、その中には、石包丁や石斧などがあり備後(広島県東部)から運ばれてきた鉢形土器も出土しています。加えて、石器の中には未製品も多く見られることから、この遺跡の周辺には石器の製作に携わった集団がいたと考えられています。

③ 椿神社

南中学校のすぐそばにある伊豫豆比古命神社(椿神社)には、伊豫豆比古命・



発掘された土器

遙か昔の石井地域の姿を多くの人に知ってほしい

自分たちが住んでいる石井地域から前方後方墳や多くの遺物が出土したことが分かり、とても驚きました。これからも学習を続け、ふるさと石井の歴史に目を向けてその魅力を多くの人に発信していきたいです。



前列左から、片岡奈津伎さん(3年)、東浦寧々さん(3年)、白石桜さん(2年)、久保千晴さん(3年)。後列左から小原崇聖さん(2年)、水野滉祐さん(3年)、野間晴明さん(3年)、由利将大さん(3年)

先人と文化の読み物教材

「語り継ぎたいふるさと松山百話」



松山の先人や文化に関する心に響くエピソードをまとめた教材集です。一話が10〜14ページ程度で、気軽に松山ゆかりの先人の足跡や文化に親しむことができ、市立図書館で見ることが出来ます。